

# 長崎県地方史だより

第75号

題字 小曾根 星 堂 先生

## 黒田藩長崎警固古賀家日記と長崎

村崎春樹（長崎近世文書研究会）



一・古賀家と古賀十二郎

長崎の郷土史家古賀十二郎は、長崎浦五島町商家古

賀家に生まれた。この古賀家は慶安4年（一六五二）に筑前福岡黒田藩長崎蔵屋敷の料理請負および食料品の調達を行うようになり幕末まで続く、黒田藩長崎蔵屋敷勝手方御用商人であった。屋号は萬屋という。

この古賀家に代々引き継がれた日記があり、古賀十二郎が古賀文庫の一つとして所蔵していた、文化・文政から文久（一部明治）までの日記である。

平成2年（一九九〇）長崎県立図書館が購入して、現在は長崎歴史文化博物館に収蔵されている。厚本で2冊題名はなく、仮題として黒田藩長崎警固古賀家日記とされている。

内容は、黒田藩の勝手方御用商人として黒田藩主末崎時に長崎の諸役人への接待料理の手配また黒田藩が長崎警備の当番時に長崎奉行が各番所巡検時の接待など、そのほか黒田藩と長崎との関係が勝手方御用商人の立場から綴られている。

1. 古賀家日記に見る古賀家（萬屋）について

古賀家日記の巻末には、文久2年（一八六二）八月黒田藩へ萬屋（古賀）太郎次から二通の萬屋の相続に関する願書がだされた事が記録されている。その日記には

「乍恐奉願口上書

私先祖慶安四年方数代諸御用向被仰付置偏二御國恩の御陰を以家族共永続仕……冥加至極難有仕合二奉存知候然ル処安政二年実父故太郎次病死仕候初年二御座□養子仕家名相……何連も□申合同人難洪仕申候依之私儀家名相続仕候而是……文久二年戌八月

萬屋太郎次

さらに「乍恐奉願口上書」には「私共一揆萬屋豊次郎義故太郎次実子御座無右太郎次病氣砌卯年□源蔵と申者……家名相続仕御屋敷様諸御用をも前々通……其後源蔵も太郎次と改名仕……然二近來至不審□坏不行跡……以後相改候振合も無之義二付不停止事双方申合離縁相成候様右豊次郎當戌式十四歳相成候□相続の処……」と生々しい実態が記されている。

## 目次

・黒田藩長崎警固古賀家日記と長崎	村崎 春樹	1
・「深溝世紀」	松尾 卓次	4
・地方史研究会及び県内各加入団体の活動状況		7
・事務局より		10